

(人文学部)

# 教 育 評 価 報 告 書

(平成13年度着手分)

新 潟 大 学 人 文 学 部

平成14年4月

新潟大学評価委員会



## 対象組織の現況

学部名： 人文学部

課程構成：行動科学課程，地域文化課程，情報文化課程

学生総数：

人文学部	行動科学課程	入学定員	75人	学生現員	319人
	地域文化課程	入学定員	100人	学生現員	427人
	情報文化課程	入学定員	50人	学生現員	213人

行動科学課程には人間学・行動基礎論・社会行動論の3履修コース，地域文化課程には日本文化・アジア文化・英米文化・ヨーロッパ文化・比較社会文化の5履修コース，情報文化課程には情報メディア論・文化コミュニケーションの2履修コースがある。各履修コースは，さらに専門的な学問分野によって構成されている。学科制の学部と異なり，専門分野の選択や科目の履修方法において，より学生の希望や自由意思を尊重したものになっている。

教員総数： 総数 86 人（教授 46 人，助教授 33 人，講師 2 人，助手 5 人）

(人文学部)

## 教育目的及び目標

### (1) 教育目的

人文学部では、世界の古典となっている文献研究から、現代の最先端研究であるコンピュータ科学に至るまで極めて幅広い分野を対象とし、人間と文化の多角的・総合的な教育と研究を行うことを理念として掲げている。

人文学部は、文献的研究とともに、実験、調査、フィールドワーク、さらにはコンピュータ技術の利用など、新しい研究方法を重視しつつ、人間と文化についての多角的、総合的研究を推進し、情報化、国際化の進む現代社会の多様な要請に応えうる豊かな専門的知識と広い視野を備えた人材を養成することを目的としている。

こうした目的に対応するために、本学部ではすでに昭和 55 年の人文・法・経の 3 学部分離改組の際に、従来の学科制に代えて課程制を採用し、「行動科学課程」及び「文化課程」の 2 課程を設置し、新構想のもとで教育研究を進めてきた。

さらに大学設置基準の大綱化と本学における教養部の廃止に伴い、平成 6 年 4 月にカリキュラムの抜本的な改革を行うとともに、それまでの 2 課程を、「行動科学課程」、「地域文化課程」、及び「情報文化課程」の 3 課程に改組再編した。これまで人文学部は、過去の人文科学研究の伝統を継承しつつ、文献研究をはじめ実験、調査、フィールドワーク、コンピュータ技術の応用や身体表現論のようなサブカルチャーの分析を含む、新しい方法を積極的に取り入れて教育の改革を行い、現代社会の要請に応えうる豊かな専門知識と幅広い視野を備えた人材を育成してきた。

これらの 3 課程は、それぞれ以下のような履修コースからなる。

行動科学課程は、人間とその行動について基礎的・原理的な研究を行うことを目的とする課程であり、「人間学」、「行動基礎論」、「社会行動論」の 3 つの履修コースをもつ。

地域文化課程は、日本も含めた世界のさまざまな地域の文化を総合的、多角的に研究する課程であり、「日本文化」、「アジア文化」、「英米文化」、「ヨーロッパ文化」、「比較社会文化」の 5 つの履修コースに分かれている。

情報文化課程は、情報メディアの進歩と社会の諸分野における情報化の進展を背景とする現代の文化を、メディアとコミュニケーションの概念を基礎として総合的に把握することを目指して新設された課程であり、「情報メディア論」及び「文化コミュニケーション」の 2 つの履修コースが設けられている。

## (2) 教育目標

21世紀を迎え、人文学部は以下のような教育目標を策定した。

- 1) 専門職業人として社会で活躍できる豊かな資質を備えた学生を送り出すために、人文学部が擁するスタッフの特色を最大限に生かしつつ、リベラル・アーツ教育の基盤整備をはかる。一方大学院進学者に対する専門基礎教育を体系化し、人文科学研究科等を改組することにより6年一貫と9年一貫の教育体制を整備する。
- 2) 人文科学の基礎である文献解釈の豊かな伝統を継承発展させつつ、実験や調査・フィールドワーク等に基づいた実証的研究を進める。人間行動研究、環日本海地域研究、比較メディア論研究、テキスト論研究の4つの柱を軸に、自然科学系を含めた学際的共同研究を推進する。具体的成果を本学部のWebページや刊行物として公表し、公開講座等を通じて社会に還元する。
- 3) 人文学部研究棟の新営等を行うことにより、現在二か所にわかれている人文学部と人文科学研究科の施設を統合し、教育環境の格段の整備をはかる。

教育目標達成のための具体的方策は、以下の通りである。

- 1) 高校教育との接続教育のための諸施策をとる。
  - a. すでに定着している導入教育(人文教養演習、入門科目)をさらに充実させる。特に、第1 Semester(1年生1学期)の導入教育について、内容の改善をはかる。
  - b. 高校教育との接続の観点を重視し、新指導要領に対応した改善を行う。高校教員との教育についての懇談会を実施する。推薦入試の学生について、大学入学前に事前指導を行う。
- 2) カリキュラム改革を、平成15年度導入を目途として実施する。
  - a. 大教センターと協力体制を密接に保ちながら、リベラル・アーツ教育の基盤整備のためのカリキュラム改革をすすめる。
  - b. Semester制・キャップ制を定着させ、成績評価の基準を定め、GPAを導入することにより、教育制度の改善をはかる。
  - c. 人文科学研究科での専門的教育を前提にした一貫教育を学部教育において実施するために、専門基礎科目を重視したカリキュラムの整備を行う。大学院で研究を行うための前提となる研究法の修得を目的とした演習を整備するため、3・4年生向

(人文学部)

けの演習を改善する。

- d. 社会との接続教育として、平成 12 年度より実施しているインターンシップを定着させるため平成 13 年度以降、学部内にインターンシップ委員会を発足させる。
- e. 平成 14 年度より、新潟国際情報大学と敬和学園大学との単位互換制度を発足させる。

3) 「人文科学の学際化と情報テクノロジーの進展に対応したリベラル・アーツ教育と専門基礎教育の改善」に関するプロジェクト・チームにより以下の教授法研究を推進する。

- a. 学際的履修コースにおける授業テキストを作成し、視聴覚副教材を開発し、それをいた教授法を研究する。
- b. 高度情報教育内容を再定義し、新たなメディア・リテラシーを模索する。

4) 平成 15 年度を目途としてアドバイザー制度とオフィスアワーを定着させ、学生への助言体制を整備する。また FD を開く等により、不断に授業法の改善を行う。

5) 平成 16 年度の実施を目標に、単位互換制度など留学をめぐる条件整備をおこない、提携大学を中心とする留学生の相互交流を促進する。

## 項目別評価結果

### 1. アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

ここでは、教育目的及び目標に沿ったアドミッション・ポリシーに関する取組、教育目的の周知・公表に関する取組が、教育目的及び目標にどの程度貢献しているか評価する。

#### 特色ある取組・優れた点

人文学部の教育理念は「世界の古典となっている文献研究から、現代の最先端研究であるコンピュータ科学に至るまで極めて幅広い分野を対象とし、人間と文化の多角的・総合的な教育を行う。」とある。この教育理念を達成するために、次のようにアドミッション・ポリシーが明文化され、学内外に周知・公表されていることは評価される。

- ・ 高校教育全般にわたって豊かな基礎的学力を持った学生
- ・ 本学部での勉学に適切な資質、強い意欲を有する多様な学生

この受け入れ方針に沿って、多様な入試選抜・選考を導入していること、「人文学部説明会」などを実施していること、さらに転入学・編入学などによって大学間の交流や短大生にも広く門戸を開いていることは評価される。とくに、全教員の研究内容の紹介と資格・就職動向が掲載される『人文学部案内』の発行は優れた取り組みだといえる。「勉学実態調査」から人文学部に入学した理由として「学びたいことを教えている」と評価されている。

#### 改善を要する点・問題点等

(1) 学生受け入れの周知活動について、ホーム・ページの作成など、改善の余地はある。『人文学部案内』には、志願者状況、男女比、県内・県外比率などを掲載するなど改善の余地がある。(2) 推薦入試の実施状況について、課程でばらつきがあるので統一するなり検討の必要がある。(3) 多様な入試選抜制度で入学した学生の追跡調査を行い、各選抜制度は趣旨や目的を果たしているか分析するなど改善の余地がある。(4) 社会人入学など多様な選抜入学者が寡少である。2年次編入学や転入学の実績が過去5年間ないが、制度のあり方も含めて検討の余地がある。

#### 貢献の状況（水準：7）

取組は、教育目的の達成に大いに努力していると認められるが、改善の余地はある。

(人文学部)

## 2. 教育内容面での取組

ここでは、教育課程及びその下で実施される授業の構成やその展開に必要な施設・設備が、教育目的及び目標にどの程度貢献しているか評価する。

### 特色ある取組・優れた点

人文学部では平成6年の情報文化課程の発足にともない、以下の5点でカリキュラムの抜本的改革を遂行してきたことは評価される。1)4年間一貫教育の実効性を上げるために、教養教育と専門教育の相互補完的關係を保持する。2)少人数教育を旨とし、4年を通じて演習科目を受講させる。3)英語以外にもう一つの初修外国語を必修とし、かつ高度の運用能力を身に付けさせる。4)専門分野への段階的理解を促進すると共に、新しい知の領域や融合的な分野についても積極的に取り組む。5)自発的な研究力と表現力を体得させるため、卒業論文を必修とする。

このような基本方針に基づき、年に2度の学年別ガイダンスによりきめ細かな指導がなされていること、高年次に教養科目(教養種)を設けていることは独自の点である。さらに、授業計画・講義要録など授業細目の取組については、導入教育による大学と高校との接続、TAによる大学院教育との接続、シラバスの作成や授業担当者間の調整によって改善がはかられている。これらの点は大いに評価される。

### 改善を要する点・問題点等

(1)教育内容面での取組が、制度的措置によって注目すべき成果をあげているとあるが、具体的にどのような面で成果が現れているのか説明が必要であろう。(2)高年次教養科目(教養種)を他に類をみない特色としているが、専門教育とどのような位置づけになっているのか説明を要する。(3)学生が本を読まなくなっているのは共通の悩みであるが、語学力と併せて読書量を増やすなど適切な指導が望まれる。(4)専門種はコースによって開講科目数にアンバランスがある。教員の再配置やTAの配分など検討を要する。

### 貢献の状況(水準:7)

取組は、教育目的の達成に大いに努力していると認められるが、改善の余地はある。



### 3. 教育方法及び成績評価面での取組

ここでは、教育目的及び目標に照らして、教育方法及び成績評価法やそれに沿った施設・設備が、教育目的及び目標にどの程度貢献しているか評価する。

#### 特色ある取組・優れた点

教養部の廃止にともなって人文学部では、新生に対してスタディ・スキルズの導入や初修外国語科目の充実をはかっていることは、1年次教育の責任を自覚したもので評価される。教育方法の工夫・改善としては、少人数教育・対話討論形式を採用していること、教員と学生とが緊密に連携を取りながら授業が行われていること、講義、実験、演習、教室外でのフィールドワークなどバランスよく配置され、教育効果が上がるように工夫されていることは学部の特徴である。特に、アドバイザーがオフィスアワーを設定し、学生からの相談や質問に対応できる工夫がなされていることは評価できる。さらに、教養科目の共通演習については、学務委員が責任者となって担当者会議を開催し、授業の進め方や難易度を議論していること、公開授業や勉学実態調査を実施していること、CAP制は下限も設定していることは特色ある取組である。敬和学園大学と新潟国際情報大学との単位互換制は、大学間のコンソシアムという点からも高く評価される。

#### 改善を要する点・問題点等

(1) 学生の卒業単位の分布状況など、データ・ベースの効果的な利用が検討されてもよい。少人数教育について、希望者が多い場合の調整はどのようになっているのか見えにくい。(2) キャップ制やGPAの導入は評価されるが、導入前と導入後にどのような変化が学生や教員側にあるのか、実際の運用や指導はどうなっているのか明確化する必要がある。(3) インターンシップや体験学習への取組は評価できるが、参加人数が多いとは言えない。また希望者の選考について不明確であり、改善の余地がある。(4) 予算上やむを得ない面があるものの、実験、実習、演習に必要な施設や図書などの整備について大幅な改善の余地がある。(5) 少人数教育、教養教育、専門教育などによって教員の授業負担は増えているはずだが、そのデータを整備する必要がある。

#### 貢献の状況(水準: 7)

取組は、教育目的の達成に大いに努力していると認められるが、改善の余地はある。

(人文学部)

#### 4. 教育の達成状況

ここでは、対象組織における「学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況」、  
「卒業後の進路の状況」などから判断して、教育目的及び目標において意図する教育の成  
果がどの程度達成されているか評価する。

##### 特色ある取組・優れた点

学生に対する教育の達成状況について本学部は、授業への参加度、提出物の出来栄え、  
小試験を含む各種試験の成績を総合して評価を行うように努めている。卒業判定合格者が  
9割であることは、進級について制度がフレキシブルに改善されており、個々の学生の学  
習実態にそった教育が行われていることを示すものであり、高く評価される。

シラバスの有効性については、根拠資料に記載されるように、シラバスのフォームが学  
生の学習の活性化や教員の指導方法の改善に貢献しうるように改善がなされている。

また、公的検定試験による単位認定など、多様な学修機会が学生に与えられており、学  
部の教育目標に合致したものだといえる。

卒業後の進路については、厳しい雇用情勢が続いているなか、就職内定率は80%と高い  
ことは、人文系の学部としてはかなり健闘しているといえる。また、大学院への進学状況  
も評価できる。

##### 改善を要する点・問題点等

(1)「勉学実態調査」の結果では、授業を欠席する理由として「授業が魅力的でない  
から」が4割を越えている。また、授業に希望することとして「授業に工夫をこらして学  
生に理解できるようにしてほしい」が35%と最も多くなっている。学生の授業評価につ  
いては、フィードバックするなど改善が望まれる。(2)自己評価書では、公的認定試験の合  
格者が年々増える傾向にあると記載されているが、根拠資料では「現在までのところ、公  
的検定試験による申請を行う学生は多くない」とある。公的認定試験の周知など努力する  
必要がある。(3)採用枠が少ないのでやむを得ない面があるが、高校教員採用試験への取  
組など教育目的や理念と合致する就職先の開拓に努力する必要がある。(4)単位の取得状  
況などの各段階における学生が身につけた学力や育成された資質・能力の状況から教育の  
成果がどの程度達成されているのか把握する必要がある。

### 貢献の状況(水準:7)

取組は教育目的の達成に向けて大いに努力して、成果も上がっている。

## 5. 学生生活面に対する支援

ここでは、学生の学習や生活についての支援が、教育目的及び目標の達成にどの程度貢献しているか評価する。

### 特色ある取組・優れた点

一般的な対応であるが、各学年次において学生個別の相談に応じる体制ができている。とくに、アドバイザー制の導入による学習に対する支援体制の取組は評価される。また、保護者との連絡や保護者からの相談などきめ細かな対応に努めている。その他、人文学部では身体障害のある学生の便をはかるために、各教室あるいは各教員の研究室までの移動経路のバリアフリー化に努めている。

経済面での支援については、日本育英会奨学金の募集など、掲示板等により学生への周知に努めている。また、就職・進学への指導・助言の組織体制・実施状況については、「新学期ガイダンス時の就職ガイダンス」「教員志望学生のためのガイダンス」「進路希望アンケート調査」「インターネット・メール利用ガイダンス」「就職講演会」「先輩の体験談」など効果的な取組に努めている。

その他、事故等(交通事故含む)の防止対策として、ガイダンスにおいて適宜、学務委員より、事故等の注意を喚起していること、セクシャルハラスメントなど人権問題についてのガイダンスの実施、学内外での事故に対する『懲戒マニュアル』の作成などによって大きな問題が生じていないことは、女子学生の多い学部として評価される。

### 改善を要する点・問題点等

(1) 奨学金などの広報は、Web 上でも周知徹底をはかる必要がある。(2) 狭隘な施設であることは十分理解できるが、学生が共通に利用できる教室の確保など改善の余地がある。(3) 就職しないで卒業した学生に対するフォローアップなど、学部としても適切に対処する必要がある。

(人文学部)

### 貢献の状況(水準:7)

取組は、教育目的の達成に向けて大いに努力しているといえるが、改善の余地はある。

## 6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

ここでは、教育目的及び目標を達成するための取組を向上及び改善するためのシステムがどの程度機能しているのか評価する。

### 特色ある取組・優れた点

人文学部では教育の質の向上のために、以下4つの目標が設定されていることは特色ある取組である。1)教育評価システムを作る。2)FDやアゴラを実施する。3)教員の教育研究評価において、教育活動を積極的に評価する尺度やその評価システムを構築し、各教員において、教育と研究の両輪のバランスがとれた活動を支援するように努める。4)多様な学生の要望に応えるために、課外の個人指導・少人数指導を充実させることで、少人数レベルでの双方向性の実現を目指す。

これら4つの目標に基づいて、学務委員が責任者となって「専門科目の授業に関するアンケート」を実施し、教育の問題点を汲み取る努力が行われていることは評価されてよい。

複数の教員が共同して担当する科目について、各自の担当分の調整と全体の整合性など、随時、担当者間で検討が定期的になされている。さらに、教員人事のシステムにおいて、教員の採用・昇任の際に候補者審査委員会が研究業績のみならず、教育業績についても審査を行っていることは評価される。

### 改善を要する点・問題点等

(1)教員人事において教育実績を評価しているところがあるが、教員の講義負担に関するデータや客観的な評価方法など整備する必要がある。(2)学生の授業評価を教育の改善に結びつけるシステムの整備、及びそれが有効に機能するための組織的な取組についていっそう改善の余地がある。(3)各履修コース単位の改善については、履修コース委員会が当たっているが、各教員へのフィードバックにおいて、FDやアゴラを通じて各教員へのいっそうの周知をはかる必要がある。

**貢献の状況(水準：7)**

取組は、教育目的の達成に大いに努力していると認められるが、改善の余地はある。

## 総合的評価結果

人文学部が、学部の教育理念の実現のために多様な入試選抜・選考を導入し、「学部説明会」やPR事業を実施していること、それが県内外の高校生や高校教諭に周知されていることは評価される。とくに『人文学部案内』の発行は優れた取組であり、学生の65%が人文学部に入学した理由を「学びたいことを教えている」と評価している通りである。しかし、入試科目について課程によってばらつきがあり、多様な選抜方法により入学した学生の追跡調査が不十分など、改善の余地がある。

平成6年の情報文化課程の発足にともない、4年間一貫教育、少人数教育、英語以外の初修外国の履修、融合的分野の開拓、そして卒論の必修化を基本方針として学年別ガイダンスによるきめ細かな指導がなされていることは優れた点である。また、専門教育と教養教育との融合をはかっていることは教育課程の特色である。反面、3年次までに卒業単位を取得する傾向が強まるなかで、専門の積み上げが専門種、種、種を通じてどの程度保証されているのか把握する必要がある。

教養部の廃止にともなって人文学部では、新入生に対してスタディ・スキルの導入や、アドバイザーによるオフィスアワーの活用など、学生からの相談や質問に対応できる工夫がなされていることは評価される。さらに、アゴラを開催し、授業の進め方や難易度を議論していること、公開授業や勉学実態調査を実施していること、またCAP制は下限も設定していることは高く評価される。しかし、その結果、知識の形成や探求面の修得でどの程度達成されているか、適切に把握する必要がある。アンケート調査に現れた学生の授業評価を教育にフィードバックする取組を期待したい。

学生相談については、アドバイザー制の導入により、きめ細かな体制を整えつつあることは特色ある取組である。また、就職・進学の指導・助言について、各種ガイダンスを通じて支援体制の整備に努めていることは評価される。不況にもかかわらず、人文系としては8割を超える就職率を示しているが、その一方で就職しないで卒業する学生に対するフォローアップをはかる必要がある。

教育の質の向上については、教員の教育研究評価において、研究評価に偏りがちな傾向を是正し、教育活動を積極的に評価する尺度やその評価システムの構築を目指されている点は評価される。結果として、これらの努力が報われるように、組織的な推進に取り組んでいただきたい。

## 評価結果の概要

### 1. 項目別評価の概要

#### 1) アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

特色ある取組・優れた点として、教育理念にそったアドミッション・ポリシーが明文化され、学内外に周知・公表されていること、多様な入試選抜制度の導入と『人文学部案内』の発行は優れた取組である。改善を要する点としては、ホーム・ページの作成、センター試験の科目数のばらつきの是正、学生の入学後の追跡調査、編入学や転入学の実施方針、方法の周知である。取組は教育目的の達成のために大いに努力している。

#### 2) 教育内容面での取組

特色ある取組・優れた点として、平成6年の情報文化課程の発足にともない、カリキュラムの抜本的改革を遂行してきたこと、年に2度の学年別ガイダンスによりきめ細かな指導がなされていること、高年次に教養科目（教養種）を設けていることである。改善を要する点としては、専門種の開講科目数のアンバランスと教員配置、語学力と読書量の指導などである。取組は、教育目的の達成のために大いに努力している。

#### 3) 教育方法及び成績評価面での取組

特色ある取組・優れた点としては、新入生に対してスタディ・スキルの導入や初修外国語科目の充実をはかっていること、少人数教育を実施していること、アドバイザーがオフィスアワーを設定していることである。改善を要する点としては、キャップ制やGPAについての実際の運用や成績評価の基準、インターンシップ参加者数の規模、施設や図書などである。取組は教育目的の達成のために大いに努力している。

#### 4) 教育の達成状況

特色ある取組・優れた点としては、卒業判定合格者が9割であること、公的検定試験による単位認定など、多様な学修機会が学生に与えられていること、就職内定率は80%と高いことなどである。改善を要する点は、学生の授業評価のフィードバック、公的認定試験の周知、教育理念に合致する就職先の開拓などである。取組は、教育目的の達成に向けて成果が上がっている。

#### 5) 学生生活面に対する支援

特色ある取組としては、アドバイザー制の導入による学習支援体制、就職・進学の指導・助言体制、セクシャル・ハラスメントなど人権問題についてのガイダンス、学内外での事

(人文学部)

故に対する『懲戒マニュアル』の作成などである。改善を要する点としては、奨学金などの周知徹底、学生が共通に利用できる教室の確保、無業者に対するフォローアップなどである。取組は、教育目的の達成に大いに努力している。

## 6) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

特色ある取組としては、教育評価システムの構築、FD やアゴラの実施、教員の業績評価における教育活動評価の導入、少人数レベルの教育体制を目指していることである。改善を要する点としては、こうした目標を具体的に運用し、機能させるためのシステム作りにある。取組は、教育目的の達成に大いに努力している。

人文学部では、学部理念の実現のために多様な入試選抜・選考を導入し、少人数教育や融合的分野の開拓、そして卒論の必修化を基本方針としてきめ細かな指導がなされている。進級及び就職率も高い。今後は、教員の負担の問題も含めて教育の質向上に向けた様々な取組の成果がいつそう上がるように、組織的な推進に取り組んでいただきたい。

## 2. 総合的評価の概要

人文学部では、多様な入試選抜・選考を導入、4年間一貫教育、少人数教育、英語以外の初修外国の履修、融合的分野の開拓、卒論の必修化を基本方針として学年別ガイダンスによるきめ細かな指導がなされ、また、専門教育と教養教育との融合をはかっている。さらに、アゴラを開催し、授業の進め方や難易度を議論していること、公開授業や勉学実態調査を実施していること、また CAP 制は下限も設定していることは高く評価される。

教育の質向上については、教員の教育研究評価において、研究評価に偏りがちな傾向を是正し、教育活動を積極的に評価する尺度やその評価システムの構築を目指している点は評価される。結果として、これらの努力が報われるように、組織的な推進に取り組んでいただきたい。